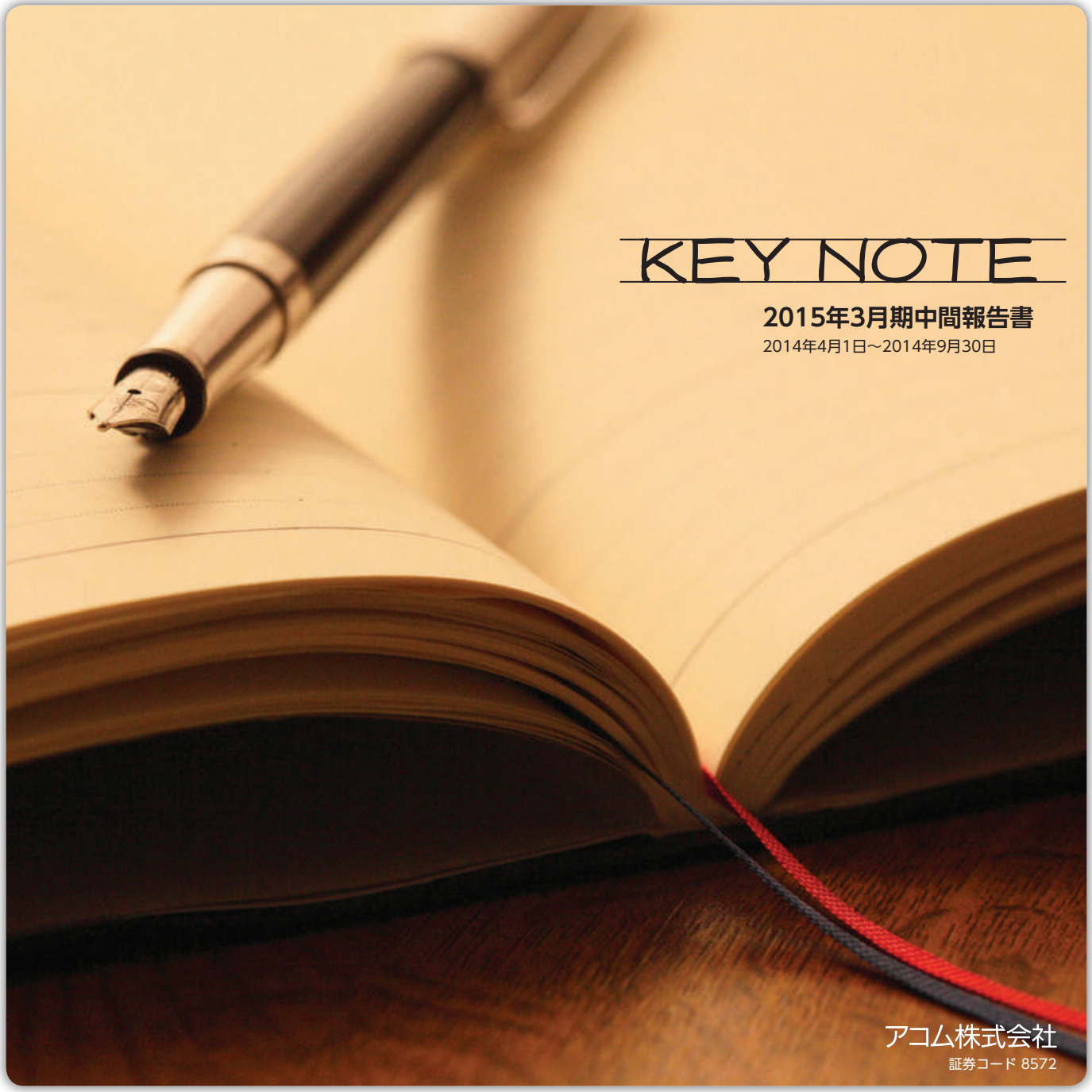


KEY NOTE

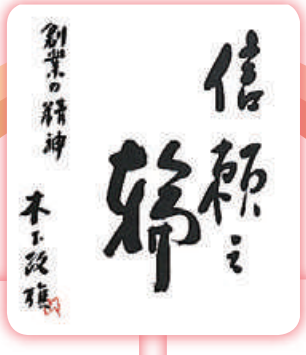
2015年3月期中間報告書

2014年4月1日～2014年9月30日

アコム株式会社

証券コード 8572

Our Vision アコムグループビジョン体系



社名の由来

acom

- Affection（愛情）
- Confidence（信頼）
- Moderation（節度）

企業理念

アコムは人間尊重の精神と
お客さま第一義に基づき
創造と革新の経営を通じて
楽しく豊かなパーソナルライフの実現と
生活文化の向上に貢献する

アコムグループ倫理綱領

経営ビジョン

一人でも多くのお客さまに最高の満足を感じていただき
個人ローン市場において社会に信頼される「リーディングカンパニー」を目指す

中期目標

個人ローン市場において
「シェアNo.1企業」となるべく
第39期末1.6兆円を
達成するとともに、
海外個人ローン市場において
「貸付残高 日系企業No.1」の
地位を確立する

中期重点課題

- コンプライアンス風土の深化
- 新規集客の拡大に向けたマーケティング力の強化
- 債権健全性を維持した業容拡大の実現
- 保証事業の中核事業としての確立
- 海外事業の中核事業への成長
- グループ回収基盤の拡充
- コスト最適化の実現
- 次世代を担う人材育成の強化

2014年度経営方針

中期目標の達成に向け
競争優位性の
更なる強化を図り
アコムグループ一丸となって
事業の質的向上と
拡大を推進する

<本誌の発行にあたって>　本資料の数値のうち、過去の事実以外の当社グループの計画、方針その他の記載にかかわるものは、将来の業績にかかる予想値であり、それらはいずれも、現時点において当社グループが把握している情報に基づく経営上の想定や見解を基礎に算出されたものです。従いまして、かかる予想値は、リスクや不確定要因を内包するものであって、現実の業績は、諸々の要因により、かかる予想値と異なってくる可能性があります。

To Our Shareholders 株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

国内カードローン市場の競争環境は、銀行および大手消費者金融会社を中心に、規模拡大に向けた設備投資が見られる中、銀行におけるカードローン残高は、個人ローン事業の本格展開を主因に増加基調となり、ノンバンクにおいても営業貸付金残高に底打ち感が出ているなど、明るい兆しが見えつつありますが、ノンバンク経営の最重点課題である利息返還請求問題は、請求件数が高止まりしており、引き続き厳しい環境が続いております。

このような経営環境の中、当社グループにおきましては、ローン事業、信用保証事業、海外金融事業の中核3事業すべてにおいて、業容は前期末比で拡大し、概ね順調に推移しております。

しかしながら中間配当は、利息返還請求が依然として高止まりしており、今後の動向に不確実性が残る状況を鑑み、誠に遺憾ながら、当初の予定通り無配とさせていただきました。中核3事業の安定成長が確実となり、利息返還請求による自己資本の毀損リスクが完全に払拭された時点で、復配させていただきたいと考えておりますので、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後も、株主の皆さまのご期待に添えるよう、MUFGグループとの緊密な連携を図りつつ、持続的成長による企業価値の最大化と、広く社会に貢献する企業グループを目指していく所存です。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2014年12月

代表取締役社長兼会長

木下盛好

連結経営成績（2014.4～2014.9）

当第2四半期連結累計期間は増収減益

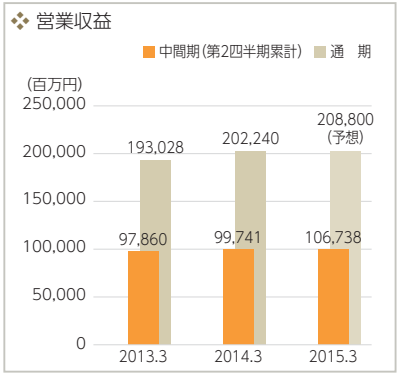
当第2四半期連結累計期間においては、エム・ユー信用保証㈱が2014年3月に営業を開始したことに加え、当社の信用保証残高も順調に拡大したことにより信用保証収益が増加し、営業収益は1,067億3千8百万円（前年同期比7.0%増）となりましたが、貸倒引当金繰入額の増加等により営業費用が765億1千8百万円（前年同期比11.7%増）となったことから、営業利益は302億1千9百万円（前年同期比3.3%減）、経常利益は305億6百万円（前年同期比4.0%減）、四半期純利益は280億9千万円（前年同期比2.1%減）となりました。

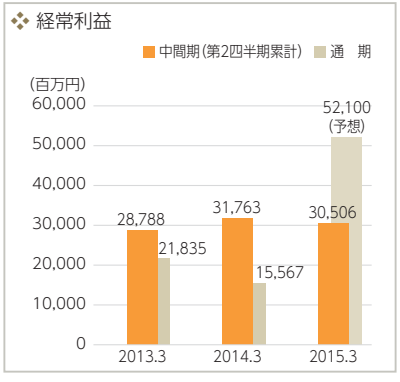
連結経営成績

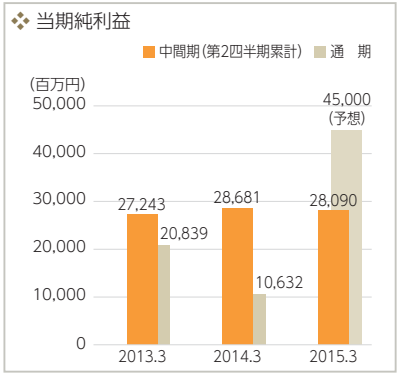
科目		2013.3	2013.9	2014.3	2014.9	2015.3（予想）
営業収益	（百万円）	193,028	99,741	202,240	106,738	208,800
営業利益	（百万円）	20,961	31,242	14,333	30,219	52,200
経常利益	（百万円）	21,835	31,763	15,567	30,506	52,100
当期純利益	（百万円）	20,839	28,681	10,632	28,090	45,000
1株当たり当期純利益	（円）	13.30	18.31	6.79	17.93	28.72
ROE（自己資本当期純利益率）	（%）	7.8	9.7	3.7	9.1	—
ROA（総資産当期純利益率）	（%）	1.8	2.5	0.9	2.4	—

（注1）当社は2013年10月1日付で、普通株式1株につき10株の割合をもって分割する株式分割を実施いたしました。これに伴い、2013年9月以前の「1株当たり当期純利益」は当該株式分割がおこなわれたと仮定して算定しております。
（注2）ROE、ROA算出のための自己資本および総資産は期首と期末の平均値を使用しています。

業績の推移







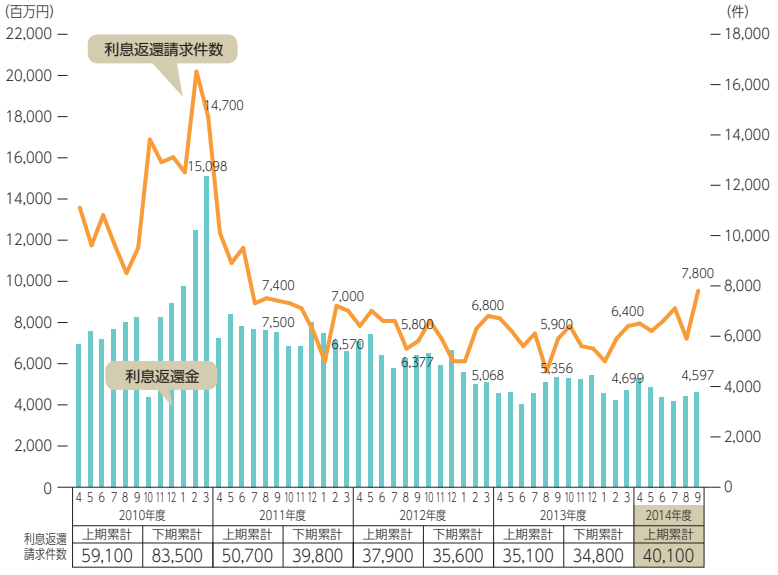
利息返還請求の状況

利息返還請求は高止まりが続く

当第2四半期連結累計期間の利息返還損失は、利息返還金279億1千1百万円（前年同期比1.0％減）と債権放棄額59億1千1百万円（前年同期比16.9％減）の合計338億2千3百万円（前年同期比4.2％減）となり、全額を利息返還損失引当金から取り崩した結果、当第2四半期末の同引当金は902億7千6百万円となりました。

なお、利息返還請求は、2011年2月をピークに減少基調で推移しておりましたが、足元では特定の法律事務所などからの請求増加により、高止まりが続いております。利息返還損失引当金については、今後も発生予測額と実績額の乖離幅を検証し、妥当性、十分性を評価のうえ、適切な対応をとってまいります。

❖ 利息返還請求件数および利息返還金（キャッシュ・アウト額）の推移



	2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度
利息返還請求件数	上期累計	下期累計	上期累計	下期累計	上期累計	下期累計	上期累計	下期累計	上期累計
	59,100	83,500	50,700	39,800	37,900	35,600	35,100	34,800	40,100

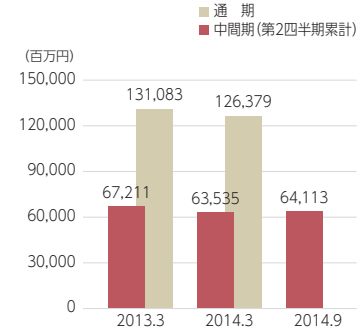
通期業績見通し

当第2四半期連結累計期間の業績は、2014年5月8日に公表した通期の連結業績予想に対し、進捗率は、営業収益51.1％、営業利益57.9％、経常利益58.6％、当期純利益62.4％と順調に推移しております。

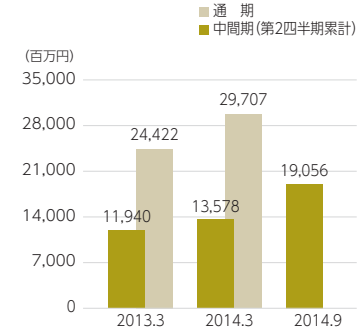
通期の業績見通しは、営業収益2,088億円、営業利益522億円、経常利益521億円、当期純利益450億円を見込んでおります。引き続き、利息返還損失引当金の追加繰入などのリスク要因を含め、各課題に対してグループ一丸となって的確に対応してまいります。

営業収益

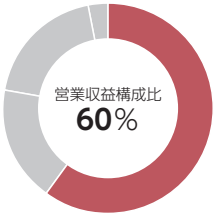
❖ ローン・包括信用購入あっせん事業



❖ 信用保証事業



ローン・包括信用購入あっせん事業



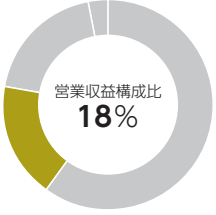
各種施策の実施により営業貸付金が引き続き増加

国内のローン・包括信用購入あっせん事業においては、㈱三菱東京UFJ銀行の店舗外ATMコーナーへの自動契約機設置や、新規お取引のお客さまへの最大30日間金利ゼロキャンペーンの実施など、商品・サービス機能の向上やプロモーションの強化に取り組むとともに、債権内容の健全性維持に努めた結果、当第2四半期連結会計期間末における当社の営業貸付金は7,385億6百万円（前年同期末比2.4%増・前期末比1.7%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績においては、償却債権回収益の増加などにより、営業収益が641億1千3百万円（前年同期比0.9%増）となりましたが、貸倒引当金繰入額の増加等により、営業利益は200億9千2百万円（前年同期比10.9%減）となりました。

なお、最大30日間金利ゼロキャンペーンにつきましては、お客さまからご好評をいただいたことから、2014年10月1日より恒常的なサービスとして導入しております。

信用保証事業

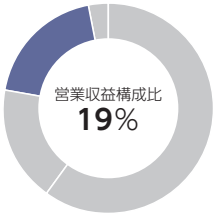


エム・ユー信用保証が加わり信用保証残高が順調に増加

信用保証事業においては、エム・ユー信用保証㈱が2014年3月に営業を開始したことに加え、当社の信用保証残高も順調に拡大し、当第2四半期連結会計期間末における信用保証残高は8,083億5千2百万円（前年同期末比28.0%増・前期末比7.5%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績においては、信用保証収益の増加を主因に営業収益が190億5千6百万円（前年同期比40.3%増）となり、営業利益は48億2千6百万円（前年同期比32.5%増）となりました。

海外における金融事業

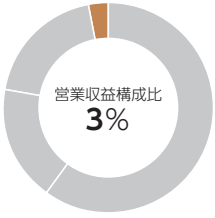


営業貸付金利息や銀行業貸出金利息が増加

海外における金融事業においては、タイ王国のEASY BUY Public Company Limitedにおけるローン事業、およびインドネシア共和国のPT. Bank Nusantara Parahyangan, Tbk.における銀行業の更なる拡大を目指して積極的に事業を推進するとともに、旺盛な内需が期待される中国と、発展著しいベトナムの両国における今後の事業展開を視野に、各種法令やリスク、市場分析など、駐在員事務所を中心に調査活動を継続しております。

当第2四半期連結累計期間の業績においては、営業貸付金利息や銀行業貸出金利息の増加を主因に、営業収益が202億7千2百万円（前年同期比6.2%増）となりましたが、営業費用において貸倒引当金繰入額や銀行業預金支払利息等が増加したことなどにより、営業利益は48億1千9百万円（前年同期比4.3%減）となりました。

債権管理回収事業



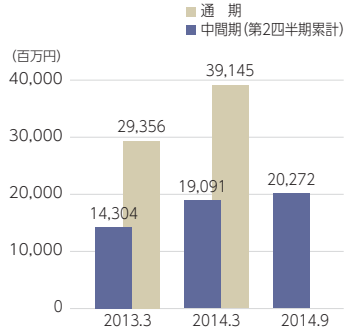
事業の体質強化や収益力向上に取り組む

債権管理回収事業においては、金融機関における不良債権処理が減少しつつあることを背景に、買取債権市場において競合環境が激化する中、事業の体質強化や収益力向上に取り組んでまいりました。

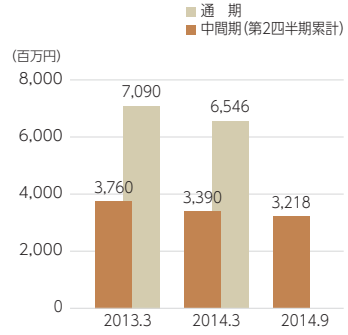
当第2四半期連結累計期間の業績においては、買取債権回収高の減少を主因に、営業収益が32億1千8百万円（前年同期比5.1%減）となりましたが、営業費用において貸倒引当金繰入額が減少したことなどにより、営業利益は3億4千1百万円（前年同期比227.3%増）となりました。

営業収益

海外における金融事業



債権管理回収事業



Ⅰ エム・ユー信用保証
～ アコムグループの信用保証事業に大きく貢献 ～

連結子会社であるエム・ユー信用保証㈱は、㈱モビットの金融機関向けの信用保証事業を承継するため、当社と㈱三菱東京UFJ銀行との共同運営会社として設立し、2014年3月より営業を開始いたしました。

エム・ユー信用保証㈱の信用保証残高は、当第2四半期において790億円にまで伸長し、通期計画757億円を既に達成しております。また、営業収益は30億円となり、通期計画達成に向けて業績は順調に推移しております。

アコムグループにおける信用保証事業全体では、信用保証残高は8,000億円を超える水準となり、中核事業の一翼として、今後も更なる業容拡大を目指してまいります。

Ⅱ 三菱東京UFJ銀行店舗外ATMコーナーへの自動契約機設置
～ 2014年7月より営業開始 ～

当社は、㈱三菱東京UFJ銀行と提携し、当社のカードローンの各種手続きに加え、「三菱東京UFJ銀行のカードローン『バンクイック』」のカード発行機能を搭載した自動契約機を、㈱三菱東京UFJ銀行の店舗外ATMコーナーに設置し、2014年7月30日より営業を開始しております。

当社は、引き続き㈱三菱東京UFJ銀行との戦略的業務提携を推進し、お客さまの健全な資金ニーズに応えてまいります。

❖ 設置場所：全20店舗

東　京　都(12店)	渋谷三丁目、キャロットタワー（三軒茶屋）、虎ノ門駅前、築地一丁目晴海通り、六本木五丁目、赤羽駅東口、五反田駅東口、新宿御苑前、門前仲町駅前、町屋、鶯谷駅前、船堀駅南口
神 奈 川 県(4店)	川崎駅東、新横浜駅前、辻堂駅南口、戸塚東口
千　葉　県(2店)	南柏駅東口、西船橋
埼　玉　県(2店)	川口駅東口幸町、松原団地駅前

アコムの社会貢献活動方針

当社は、経営の基本的な理念として、創業の精神に「信頼の輪」を、企業理念に「生活文化の向上に貢献する」を掲げております。

社会貢献活動においても、この理念に基づいて、社会福祉、地域貢献等、さまざまな活動を通じて、地域社会と良好な関係を築きつつ、「身近なアコム」と「社会に調和した企業市民」を目指しております。

世代やハンディキャップを超えて楽しめる、バリアフリーコンサート

20周年を迎えた笑顔のおてつだい「アコム“みる”コンサート物語」

「アコム“みる”コンサート物語」は、「誰かのために何かをしたい」、「多くの人の笑顔がみたい」、「地域社会と良好な関係を築きたい」という『3つの思い』を胸に、活動を続けています。

1994年から全国各地で開催された「アコム“みる”コンサート物語」は、皆さまに愛され、おかげさまで20周年を迎えることができました。

フィナーレではステージ上に出演者がずらり

コンサート概要

「アコム“みる”コンサート物語」は、光を形にする「影絵」、生演奏の「音」、影絵に生命の息吹をもたらす「語り・手話」という3つの要素を融合させることで幻想的な世界を創る独創的なタイプの芸術です。手作りの舞台の臨場感を味わうことで、演じる側とお客さまが感動を共有し、心の交流を実感することができます。

公演実績　2014年9月30日現在

- 1994年の初回公演以来、全国各地で188回公演、総来場者数179,576名
- 2014年上期は、東京（福生・昭島）、北海道（苫小牧・札幌）、福島・宮城（福島・名取）で計6公演を開催

バリアフリー支援のための創意工夫

- 車椅子専用席の拡充、手話通訳の導入、ボランティアによるご案内
- 景品として各種施設からの授産製品の購入、福祉施設へパンフレット封入の業務委託

女優「永作博美」さんを起用

現在、女優の「永作博美」さんを起用し、2種類のCMを放映しています。

1つは、サウンドロゴに「はじめてのアコム♪」を使用し、「永作博美」さんと「ラガーマン」が安心、信頼を感じさせる親しみやすい内容となっております。

もう1つは、「クレジットカードCM」となっており、「年会費無料」や「お申し込みは全国のアコムで可能」など、サービスや利便性を訴求した内容となっています。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	前期末 2014年3月31日現在	当第2四半期末 2014年9月30日現在	
資産の部			
流動資産	1,100,281	1,120,212	
現金及び預金	130,208	140,322	
営業貸付金	828,622	843,098	A
銀行業貸出金	60,338	60,194	
割賦売掛金	18,111	19,786	B
買取債権	8,846	8,671	
有価証券	19,581	15,106	
繰延税金資産	20,022	20,964	
その他	59,679	61,072	
貸倒引当金	△ 45,128	△ 49,004	
固定資産	54,921	57,459	
有形固定資産	25,318	25,199	
無形固定資産	17,309	14,970	
投資その他の資産	12,292	17,289	
資産合計	**1,155,203**	**1,177,671**	
負債の部			
流動負債	361,347	310,174	
短期借入金	48,187	33,574	C
1年内返済予定の長期借入金	164,273	131,699	
1年内償還予定の社債	51,926	48,974	
銀行業預金	74,516	73,874	
債務保証損失引当金	5,907	6,245	
その他	16,536	15,807	
固定負債	487,128	533,699	
社債	136,088	178,160	C
長期借入金	219,491	256,153	
繰延税金負債	1,608	3,183	
利息返還損失引当金	124,100	90,276	D
資産除去債務	4,544	4,579	
その他	1,297	1,345	
負債合計	**848,476**	**843,874**	
純資産の部			
株主資本	293,447	322,363	E
資本金	63,832	63,832	
資本剰余金	76,010	73,671	
利益剰余金	173,398	204,653	
自己株式	△ 19,793	△ 19,793	
その他の包括利益累計額	945	△ 836	
その他有価証券評価差額金	22	5	
為替換算調整勘定	△ 756	△ 1,929	
退職給付に係る調整累計額	1,679	1,087	
少数株主持分	12,333	12,271	
純資産合計	**306,726**	**333,797**	
負債純資産合計	**1,155,203**	**1,177,671**	

連結貸借対照表のポイント

A 営業貸付金

営業貸付金は、当社およびEASY BUYの無担保ローン残高の増加により、前期末に比べ144億7千5百万円の増加(前期末比＋1.7%)となりました。

B 割賦売掛金

割賦売掛金は、当社においてクレジットカード(ACマスターカード)に焦点を当てたテレビCMを放映するなど、積極的なプロモーションを推進したことから、前期末に比べ16億7千4百万円の増加(前期末比＋9.2%)となりました。

C 有利子負債

借入金、社債などの有利子負債残高は、前期末に比べ285億9千5百万円の増加(前期末比＋4.6%)となりました。

D 利息返還損失引当金

利息返還損失引当金は、利息返還金と債権放棄額の合計338億2千3百万円を全額取り崩しで対応したことにより、前期末に比べ338億2千3百万円の減少(前期末比△27.3%)となりました。

E 自己資本

自己資本は、前期末に比べ271億3千2百万円の増加(前期末比＋9.2%)となり、自己資本比率は、1.8ポイント増加し、27.3%となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで	当第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	
営業収益	**99,741**	**106,738**	
営業貸付金利息	70,406	70,709	A
銀行業貸出金利息	3,673	4,166	
包括信用購入あっせん収益	1,086	1,241	
個別信用購入あっせん収益	154	52	
信用保証収益	11,906	16,941	B
買取債権回収高	2,792	2,617	
その他の金融収益	488	647	
その他の営業収益	9,231	10,362	
営業費用	**68,499**	**76,518**	
金融費用	11,000	9,892	
債権買取原価	1,087	1,027	
その他の営業費用	56,411	65,599	C
営業利益	**31,242**	**30,219**	
営業外収益	**607**	**323**	
受取利息・配当金	82	90	
受取家賃	164	158	
その他	360	74	
営業外費用	**85**	**37**	
支払利息	10	11	
為替差損	59	−	
投資事業組合運用損	8	11	
その他	7	15	
経常利益	**31,763**	**30,506**	
特別利益	**6**	**23**	
固定資産売却益	6	9	
投資有価証券売却益	0	13	
その他	0	−	
特別損失	**95**	**34**	
固定資産売却損・除却損	87	33	
その他	8	0	
税金等調整前四半期純利益	**31,674**	**30,495**	
法人税、住民税及び事業税	**1,343**	**1,553**	
法人税等調整額	**367**	**△ 546**	
少数株主損益調整前四半期純利益	**29,963**	**29,488**	
少数株主利益	**1,282**	**1,397**	
四半期純利益	**28,681**	**28,090**	

連結損益計算書のポイント

A 営業貸付金利息

営業貸付金利息は、当社およびEASY BUYの無担保ローン残高が順調に伸長したことにより、前年同期に比べ3億3百万円の増加(前年同期比+0.4%)となりました。

B 信用保証収益

信用保証収益は、エム・ユー信用保証(株)が2014年3月に営業を開始したことに加え、(株)三菱東京UFJ銀行を中心に信用保証残高が順調に伸長したことにより、前年同期に比べ50億3千4百万円の増加(前年同期比+42.3%)となりました。

C その他の営業費用

その他の営業費用は、貸倒引当金繰入額の増加等により、前年同期と比べ91億8千7百万円の増加(前年同期比+16.3%)となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで	当第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期純利益	31,674	30,495	
減価償却費	928	1,732	
のれん償却額	658	492	
貸倒引当金の増減額	△ 2,060	4,038	
利息返還損失引当金の増減額	△ 35,306	△ 33,823	
営業貸付金の増減額	△ 7,980	△ 17,079	
銀行業貸出金の増減額	△ 9,863	△ 577	
割賦売掛金の増減額	1,439	△ 1,694	
買取債権の増減額	387	174	
銀行業預金の増減額	3,778	232	
その他	333	54	
小計	△ 16,010	△ 15,956	
利息及び配当金の受取額	82	89	
法人税等の支払額	△ 1,694	△ 1,435	
その他	949	397	
営業活動によるキャッシュ・フロー	**△ 16,672**	**△ 16,904**	Ⓐ
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 500	△ 1,059	
有形固定資産の売却による収入	76	25	
無形固定資産の取得による支出	△ 1,739	△ 2,049	
投資有価証券の取得による支出	△ 168	△ 1,941	
投資有価証券の売却による収入	596	13	
その他	△ 131	27	
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 1,866**	**△ 4,982**	Ⓑ
財務活動によるキャッシュ・フロー			
有利子負債の借入等による収入	208,649	228,714	
有利子負債の返済等による支出	△ 228,187	△ 198,802	
その他	438	△ 1,240	
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 19,100**	**28,670**	Ⓒ
現金及び現金同等物に係る換算差額	**422**	**△ 104**	
現金及び現金同等物の増減額	**△ 37,216**	**6,678**	
現金及び現金同等物の期首残高	**208,969**	**151,711**	
現金及び現金同等物の四半期末残高	**171,753**	**158,390**	

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

Ⓐ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、利息返還損失引当金の減少(338億2千3百万円)、営業貸付金の増加(170億7千9百万円)、割賦売掛金の増加(16億9千4百万円)などの減少要因と、税金等調整前四半期純利益(304億9千5百万円)、貸倒引当金の増加(40億3千8百万円)などの増加要因により、169億4百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

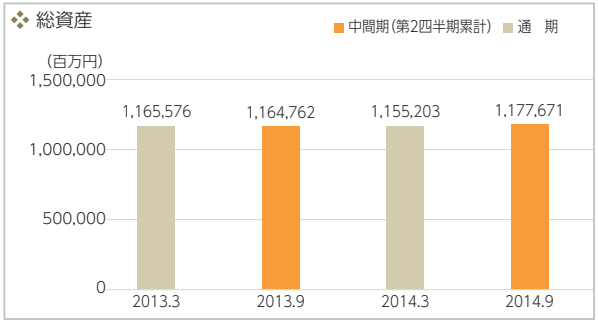
Ⓑ 投資活動によるキャッシュ・フロー

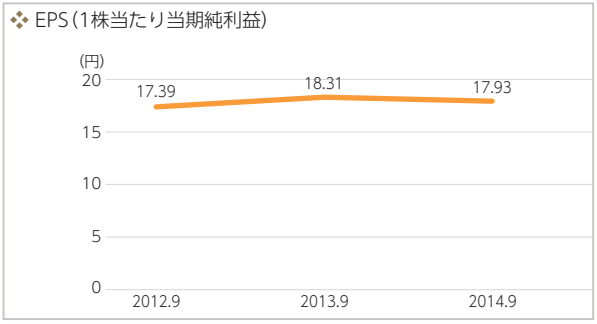
投資活動によるキャッシュ・フローは、無形固定資産の取得による支出(20億4千9百万円)、投資有価証券の取得による支出(19億4千1百万円)、有形固定資産の取得による支出(10億5千9百万円)などにより、49億8千2百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

Ⓒ 財務活動によるキャッシュ・フロー

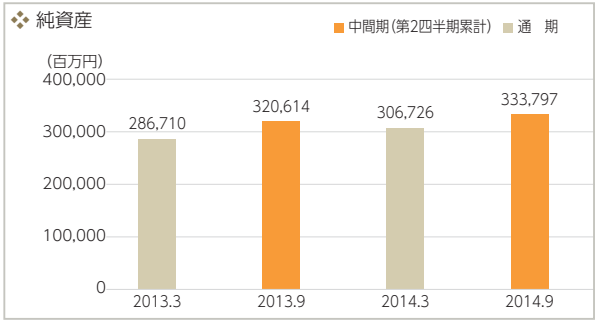
財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の借入等による収入が、有利子負債の返済等による支出を299億1千1百万円上回ったことなどにより、286億7千万円のキャッシュ・インとなりました。

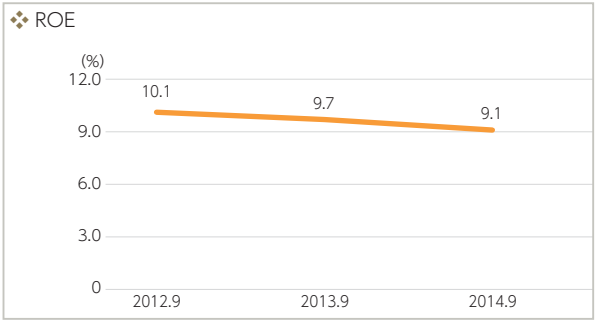
連結財務ハイライト

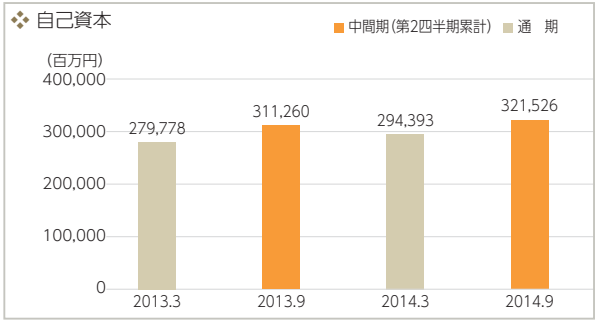


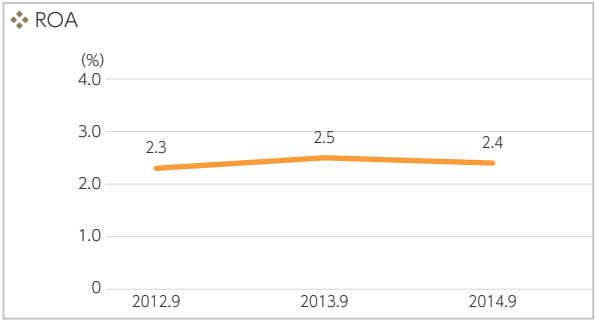


(注) 当社は2013年10月１日付で、普通株式１株につき10株の割合をもって分割する株式分割を実施いたしました。これに伴い、2013年9月以前の「1株当たり当期純利益」は当該株式分割がおこなわれたと仮定して算定しております。





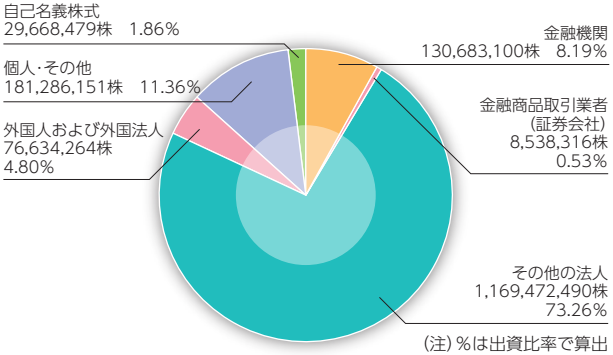




株式数および株主数

発行可能株式総数	5,321,974,000株
発行済株式の総数	1,596,282,800株
株　主　数	14,107名

所有者別分布状況



(注) %は出資比率で算出

大株主(上位10名)

株　主　名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	588,723,490	37.57
丸糸殖産株式会社	273,467,550	17.45
マルイト株式会社	125,533,430	8.01
公益財団法人木下記念事業団	92,192,320	5.88
株式会社丸糸商店	38,733,200	2.47
木下恭輔	32,598,830	2.08
木下盛好	32,397,260	2.06
三菱UFJ信託銀行株式会社	31,572,800	2.01
株式会社暢佳	30,000,000	1.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口４）	26,789,700	1.71

※上記のほか当社所有の自己株式29,668,479株があります。

アコムは三菱UFJフィナンシャル・グループの連結子会社です

当社は、2008年9月、㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）ならびに㈱三菱東京UFJ銀行と締結していた三者間の戦略的業務・資本提携の関係を一層強化すると公表しました。

これまでのパートナーシップを通じて培ってきた相互の信頼関係に基づき、「今後の消費者金融市場の健全な発展に中核的役割を果たすことが社会的使命」との認識で一致したもので、これにより、2008年12月、MUFGの連結子会社となりました。

当社は、MUFGグループの「消費者金融事業」と「カードローンにおける信用保証事業」の中核企業とし位置づけられています。

Company Profile 会社情報 (2014年9月30日現在)

会社の概要

商号	アコム株式会社
(英文社名)	ACOM CO., LTD.
設立年月日	1978年(昭和53年)10月23日
(創業)	1936年(昭和11年)4月2日
資本金	638億3,252万円
主な事業内容	ローン事業・包括信用購入あっせん事業(クレジットカード事業)・信用保証事業
従業員数	1,876名
本社所在地	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
登録番号	関東財務局長(11)第00022号
	関東(包)第5号
加盟団体	日本貸金業協会
	一般社団法人日本クレジット協会
	一般社団法人日本経済団体連合会
主要取引金融機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

取締役・監査役および執行役員

代表取締役社長兼会長	(兼 社長執行役員)	木下 盛好
代表取締役副会長		梶浦 敏明
専務取締役	(兼 専務執行役員)	立木 清
専務取締役	(兼 専務執行役員)	冨松 悟
常務取締役	(兼 常務執行役員)	福元 一雄
取締役		長田 忠千代
取締役	(社外・独立役員)	梅津 光弘
常勤監査役		佐藤 茂
常勤監査役	(社外)	安田 伸一
常勤監査役	(社外・独立役員)	大嶋 英二
監査役	(社外・独立役員)	土井 隆
常務執行役員		木下 政孝
常務執行役員		田淵 悦郎
常務執行役員		提橋 輝幸
常務執行役員		厚田 理郎
常務執行役員		松谷 信吉
執行役員		北 芳治
執行役員		渡邉 範善
執行役員		松原 義則
執行役員		宮川 悟
執行役員		内田 智視
執行役員		近藤 誠
執行役員		嘉村 康裕

アコムグループ

＜連結子会社＞
- エム・ユー信用保証株式会社
- EASY BUY Public Company Limited
- アイ・アール債権回収株式会社
- PT. Bank Nusantara Parahyangan, Tbk.

他3社

＜持分法適用関連会社＞
- エム・ユー・コミュニケーションズ株式会社

A —— Affection　愛情
CO —— Confidence　信頼
M —— Moderation　節度

アコム株式会社

本　　社　〒100-8307
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号（明治安田生命ビル）
電話（03）5533-0811（代表）
ホームページ　http://www.acom.co.jp

表紙のタイトル

「KEY NOTE（キー・ノート）」には、株主の皆さまに、アコムグループをより深くご理解いただくための〈鍵となる報告書〉でありたいという願いが込められています。小誌が当社グループの概況を知るための一助となれば幸いです。

VEGETABLE OIL INK

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080

UD FONT

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座　口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137−8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話　0120-232-711（通話料無料）
単元株式数	100株
公告方法	電子公告（http://www.acom.co.jp） ただし、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場金融商品取引所	東京証券取引所　市場第一部
銘柄コード	8572

お知らせ

（1）株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

（2）未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。